

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。

インターネットアプライアンスサーバについて (→2ページ)	.インターネットアプライアンスサーバファミリー や製品の特長・機能について説明しています。
各部の名称と機能(→23ページ)	.本体の各部の名称やランプ表示の意味について説 明しています。
運用時の操作(→27ページ)	.日常の運用の際に知っておいていただきたい機能 や操作方法について説明しています。

インターネットアプライアンスサーバについて

お買い求めになられたインターネットアプライアンスサーバ[Express5800/FirewallServer]について説明 します。

インターネットアプライアンスサーバとは



1台のラックにそれぞれの機能を持つサーバを 搭載

インターネットアプライアンスサーバの主な特長と利点は次のとおりです。

● 省スペース

すべてのモデルに厚さ1U(ユニット)のコンパクトな筐体を採用。

運用性

運用を容易にする管理ツール。

クイックスタート

ウィザード形式の専用設定ツールを標準装備。短時間(約30分)でセットアップを完了し ます。

高い信頼性

単体ユニットに閉じた動作環境で単機能を動作させるために、障害発生の影響は個々の ユニットに抑えられます。また、絞り込まれた機能のみが動作するため、万一の障害発 牛時の原因の絞り込みが容易です。

● コストパフォーマンスの向上

専用サーバに最適なチューニングが行えるため、単機能の動作において高い性能を確保 できます。また、単機能動作に必要な環境のみ提供できるため、余剰スペックがなく低 コスト化が実現されます。

管理の容易性

環境設定や運用時における管理情報など、単機能が動作するに必要な設定のみです。そのため、導入・運用管理が容易に行えます。

インターネットアプライアンスサーバファミリーには、目的や用途に応じて次のモデルが用 意されています。

• FirewallServer

インターネットと接続した企業ネットワークを外部からの不正なアクセスから守るファ イアウォール専門のサーバです。

MailWebServer

WebやFTPのサービスやインターネットを利用した電子メールの送受信や制御などイン ターネットサーバとしての必要となるサービスを提供するサーバです。

CacheServer

Webアクセス要求におけるプロキシサーバでのヒット率の向上(Foward Proxy)やWeb (情報発信)サーバからダウンロードしたデータのキャッシングによるアクセス要求への レスポンスを向上、Webサーバの負荷軽減(Reverse Proxy)を目的としたサーバです。

LoadBalancer

複数台のWebサーバへのトラフィック(要求)を整理し、負荷分散によるレスポンスの向上を目的としたサーバです。

VirusCheckServer

インターネット経由で受け渡しされるファイル(電子メール添付やファイルダウンロード)から各種ウィルスを検出/除去し、オフィスへのウィルス侵入、外部へのウィルス流出を防ぐことを目的としたサーバです。

特長と機能

特長や機能について説明します。

高 性能

- Intel® Pentium® IIIプロセッサ(1.0GHz)を搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース (100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス



高 信頼性

- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/2ビットエ ラー検出)
- メモリ縮退機能(障害を起こしたデバイスの論理的な 切り離し)
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- 異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- フロントベゼルによるセキュリティロック(ラック搭 載時)



- 最大768MBの大容量メモリ
- LANポートを4ポート標準装備



 GUIベースの設定ツールで簡単にポリシーを設 定・インストール可能

管理機能

- ESMPRO(複数のサーバの稼働状況を「ESMPRO」で 統合的に運用・管理することができる)
- Log Viewerによるログチェック
- System Status Viewerによるステータスチェック
- MWA (Management Workstation Application)



- POWERスイッチマスク
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

スペース

● 高さ1U(約44mm)のラックマウントタイプ



- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ



守機能

オフライン保守ユーティリティ

● DUMPスイッチによるメモリダンプ機能



- 便利なセットアップユーティリティ
- Policy Editor

概要

FirewallServerはインターネットと接続された企業ネットワークを外部からの不正なアクセ スから守ることが可能なファイアウォール・アプライアンス製品です。

ファイアウォールエンジンとして、 Check Point Software Technologies社のFireWall-1 を採用しました。

また、本製品は必要なソフトウェアがすべてプリインストールされているため短期間での導入/運用が可能です。



Express5800/FirewallServerはFirewallServer本体以外に、以下のハードウェアが必要です。別途ご用意ください。

● 管理用コンピュータ

FirewallServerメンテナンス用です。FirewallServerの基本設定などを行います。

• シリアルケーブル(クロス)

FirewallServerとコンソール用PCの接続に使用します。

• クライアントマシン

FirewallServerのネットワーク上に存在するWindows 98/95/2000/Windows NTで動 作するコンピュータです。FirewallServerヘインストールするポリシーを編集したり、ロ グを見たりする場合に使用します。



ホリシーの編集やログのチェックは専用のユーティリティを使います。ユーティリティ をインストールするためには、同梱されているCheckPoint2000、および CHECKPOINT製品パッチのCD-ROMが必要です。用意してください。



FirewallServerが提供するファイアウォールの特徴は次のとおりです。

- アクセス制御
 - あらかじめ定義されている160以上の広範囲なアプリケーション、サービス、プロトコルをアクセス制御可能です。
 - オープン・アーキテクチャの採用と強力なINSPECTスクリプト言語により、新しい アプリケーションやカスタム・アプリケーションに対応するよう拡張することもで きます。
 - OSの不要なサービスを削除または停止していることにより高いセキュリティレベル を提供。
- DMZ(De-Militarized Zone: 非武装地帯)の構築が可能
 - ネットワークインタフェース4ポート標準装備。
 - 3つ目のネットワークインタフェースに接続した非武装セグメント(DMZ)として利用できます。DMZにはWWWサーバなどの公開サーバを設置します。
- 認証
 - アクセス制御時の認証機能として、3つの強力な認証方法(ユーザー認証、クライアント認証、セッション認証)と複数の認証方式(S/Key、OS Password、FireWall-1 Password、RADIUS、TACACS)を使用した総合的なユーザー認証をサポートしています。
 - サーバ・アプリケーションやクライアント・アプリケーションをまったく変更する ことなく、ユーザーの認証が可能です。

- NAT(ネットワーク・アドレス変換)
 - インターネットから内部ネットワーク・アドレスを隠し、インターネット上で公開 されることを防止します。
 - 静的アドレス変換(1対1)モードと動的アドレス変換(複数対1または非表示)モード をサポートしています。
- 直感的で定評のあるグラフィカル・ユーザー・インタフェース

セキュリティ・ポリシーの定義、ユーザーの管理、通信の監査や報告などをGUIにより容易に行うことができます。

二重化構成が可能

フェイルオーバ機能を標準実装しています。FirewallServerを2台使用することでフェイルオーバ(二重化)を実現することができます。

FirewallServerの製品体系

本製品にはFireWall-1のライセンスはバンドルされていません。別途FirewallServerのライセンス製品を購入する必要があります(ただし、1カ月間だけ使用することが可能な評価用ライセンスがバンドルされています)。

FirewallServerの製品体系は大きく以下の3つに分類できます。

- FiresallServer本体(N8100-735)
- FiresallServerライセンス(UL4005-xxx)
- FiresallServerソフトウェアサポートサービス(ULH100-4000-xxx)

以降、これらについて説明します。

ライセンスタイプとノード数

● ライセンスタイプ

FireWall-1にはPermanent License (以降、「ライセンス」と記す)とEvaluation License (以降、「評価ライセンス」と記す)の2つのライセンスタイプがあります。

FirewallServerには、「評価用ライセンス」のみをパンドルしており「ライセンス」は別途ラ イセンス製品として用意しています。各「ライセンス」はノード数や機能毎に用意されて おり、用途毎に適切な「ライセンス」を選び購入いただけます。

● ノード数の数え方

ノードとは、1つのIPアドレスを持つコンピューティング・デバイスのことです。マルチ ユーザー・コンピュータでもIPアドレスが1つであれば1つのノードとして数えます。 FirewallServer(FireWall-1)によって保護されているノード(FirewallServer自身とDMZも 含む)は、たとえIPアドレスがプロキシやその他の手段で遮蔽されていたとしてもすべて 制限値の数に数えられます。

● 評価用ライセンス

FirewallServer本体には評価用ライセンスがバンドルされています。評価用ライセンスは CheckPoint2000のメディアに添付されているKeyで即日入手することができます。評 価用ライセンスの有効期限はライセンスを入手してから1ヶ月間です。

● 評価用ライセンスの入手/インストール方法

http://license.checkpoint.com/ にアクセスし、「Permanent and Evaluation Licenses」をクリックして現れた画面の指示に従って必要事項を入力してください。なお、Certificate Keyには、CheckPoint2000のメディアのケースに[Certificate Key] と書かれた白いラベルが貼ってありますので、そこに書かれている文字列を入力してください。上記Webでの手続きが完了しますと、記入したアドレス宛にE-mailにてライセンスが通知されます。

評価用ライセンスのインストール方法は基本的に通常のライセンスと同じです。「システムのセットアップ」(56ページ)に従ってください。ただし、このときFireWall-1のコンフィグレーションで、インストールタイプおよびノード数の問い合わせに対しては、実際に購入した(もしくは購入する予定の)正式ライセンスのインストールタイプとノード数にあわせてください。これが異なっていると、後で正式ライセンスをインストールするときにFireWall-1のパッケージの再インストールが必要になる可能性がありますので注意してください。

FirewallServer本体(N8100-735 Express5800/FirewallServer)

本製品にはライセンスがバンドルされていませんので、別途ライセンス製品を購入する必要 があります。

FirewallServerライセンス製品

- ファイアウォール機能のみのライセンス
 - UL4005-101 Express5800/FirewallServer 25ライセンス
 - UL4005-111 Express5800/FirewallServer 50ライセンス
 - UL4005-121 Express5800/FirewallServer 100ライセンス
 - UL4005-131 Express5800/FirewallServer 250ライセンス
 - UL4005-141 Express5800/FirewallServer 無制限ライセンス
 - ノード数にあわせて5ライセンス製品を用意しています。VPN機能はありません。

上記ライセンスを2つ購入することで制限付きの二重化構成の構築が可能です。無制限ライセンス使用時の二重化については他の構成でも構築可能です。

● ファイアウォール機能とVPN機能のライセンス

- UL4005-102 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 25ライセンス
- UL4005-112 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 50ライセンス
- UL4005-122 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 100ライセンス
- UL4005-132 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 250ライセンス
- UL4005-142 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 無制限ライセンス

ノード数にあわせて5ライセンス製品を用意しています。VPN機能を含んでいます。

上記ライセンスを2つ使用して二重化構成をとる場合、VPN機能の二重化はできません。

無制限ライセンス使用時の二重化については他の構成でも構築可能です。「ライセンス製 品の構成例」のF(15ページ)を参照してください。

● ファイアウォール機能のライセンスにVPN機能を追加するためのライセンス

UL4005-002 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(25)

UL4005-012 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(50)

UL4005-022 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(100)

UL4005-032 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(250)

UL4005-042 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(無制限)

ノード数にあわせて5ライセンス製品を用意しています。

すでにファイアウォール機能のみのライセンス製品を購入している場合、上記ライセンス製品を追加購入することでVPN機能を追加することができます。

上記ライセンス製品のみでの利用はできません。「ライセンス製品の構成例」のC(12ページ)を参照してください。

以下は二重化構成をとる場合のライセンス製品です。二重化以外では使用しません。

管理モジュールライセンス

UL4005-104 Express5800/FirewallServer統合管理ツール

複数のFirewallServer(FireWall-1)を統合して管理するモジュールのライセンス製品です。

二重化構成で障害時のセッション維持やVPN通信の二重化を行う場合は、上記ライセンス製品が必要です。

管理モジュールを使用する場合は、別途内側LAN内にWindowsNTサーバを用意してインストールしてください。

上記ライセンス製品のみでの利用はできません。「ライセンス製品の構成例」のE(14ページ)を参照してください。

● ファイアウォール機能を二重化構成で使用するためのライセンス

UL4005-105 Express5800/FirewallServer多重化 25ライセンス

UL4005-115 Express5800/FirewallServer多重化50ライセンス

UL4005-125 Express5800/FirewallServer多重化100ライセンス

UL4005-135 Express5800/FirewallServer多重化250ライセンス

UL4005-145 Express5800/FirewallServer多重化 無制限ライセンス

ノード数にあわせて5ライセンス製品を用意しています。VPN機能はありません。

障害時のセッション維持が可能です。

上記ライセンス製品のみでの利用はできません。

● ファイアウォール機能とVPN機能を二重化構成で使用するためのライセンス

UL4005-106 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 25ライセンス
 UL4005-116 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 50ライセンス
 UL4005-126 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 100ライセンス
 UL4005-136 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 250ライセンス
 UL4005-146 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 無制限ライセンス
 ノード数にあわせて5ライセンス製品を用意しています。VPN機能の二重化も可能です。
 上記ライセンス製品のみでの利用はできません。「ライセンス製品の構成例」のF(15ページ)を参照してください。

● ライセンスキーの取得について

FirewallServerを利用するためには、ライセンス製品を購入後ライセンス&サポートの申請を行いライセンスキーを取得する必要があります。

ライセンス製品に添付されている「FirewallServerライセンス&サポート申請書」に必要事 項を記入の上、新日鉄ソリューションズ株式会社(NS-Sol)にFAXします。後日(通常5営 業日)、E-Mailでライセンスキーが送付されます。



ライセンス申請はライセンス製品ご購入後3ヶ月以内に行ってください。それ以降の申 請になりますと、手続きに時間がかかることがありますので注意してください。

ライセンス製品の構成例

ライセンス製品の組み合わせの例を紹介します。

A. ファイアウォール機能のみを使用する場合(ノード数が51~100の場合の例)

VPN機能、二重化を利用しない場合の組み合わせです。

N8100-735 Express5800/FirewallServer ×1

UL4005-121 Express5800/FirewallServer 100ライセンス ×1



内部ネットワーク

B. ファイアウォール機能とVPN機能を使用する場合(ノード数が51~100の場合の例)

VPN機能を利用し、二重化を利用しない場合の組み合わせです。

N8100-735 Express5800/FirewallServer ×1

UL4005-122 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 100ライセンス ×1



C. ファイアウォール機能にVPN機能を追加する場合(ノード数が51~100の場合の例)

すでにファイアウォール機能のみのライセンス製品を購入してあり、VPN機能を追加す る場合は、VPNモジュールを追加購入します。

このとき追加するVPNモジュールのライセンス数は、既に購入済みのファイアウォール 機能のライセンス数と同じでなければいけません。

UL4005-022 Express5800/FirewallServer VPNモジュール(100) ×1



内部ネットワーク

D. 簡易的な二重化構成を構築する場合(ノード数が51~100の場合の例)

VPNを使用せず、障害時のセッション維持が必要ない場合、FirewallServer 2台とファ イアウォール機能のみのライセンス製品を2つ購入することで簡易的な二重化構成を構築 することができます。

フェイルオーバ機能はFirewallServerに標準搭載のため、二重化のためのソフトウェアを 別途購入する必要はありません。

N8100-735 Express5800/FirewallServer ×2

UL4005-121 Express5800/FirewallServer 100ライセンス ×2



FirewallServer(N8100-735)

E. 障害時にセッション維持が可能な二重化構成で、VPN通信の二重化も行う場合(ノード 数が51~100の場合の例)

2台のFirewallServerを管理するための統合管理ツールが必要になります。別途統合管理 用のマシン(WindowsNT Serverなど)を用意し、このマシンに統合管理ツールとそのラ イセンスをインストールします。また、このマシン上にGUIクライアントをインストール することができます。

N8100-735 Express5800/FirewallServer ×2

UL4005-104 Express5800/FirewallServer統合管理ツール ×1

UL4005-126 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 100ライセンス ×2



FirewallServer (N8100-735)

F. 障害時にセッション維持が可能な二重化構成で、VPN通信の二重化も行う場合(ノード 数が250以上の場合の例)

前述のEの構成と同様に「多重化(VPN機能付)無制限ライセンス(UL4005-146)」を2つと 「統合管理ツール(UL4005-104)」を使用することでも構築可能ですが、無制限ライセン スを使用する場合に限り、以下の構成での構築も可能です。

この構成では「VPN機能付無制限ライセンス」のライセンスキーを取得する際、申請書に 管理サーバのホスト情報を記入して、管理サーバ用のライセンスをあわせて申請しま す。

N8100-735 Express5800/FirewallServer ×2

UL4005-142 Express5800/FirewallServer(VPN機能付) 無制限ライセンス ×1

UL4005-146 Express5800/FirewallServer多重化(VPN機能付) 無制限ライセンス ×1



ソフトウェアサポートサービス

FirewallServerのソフトウェアについては、ライセンス製品に適合したFirewallServerソフトウェアサポートサービス(以降、サービス製品と記します)を用意しています。

本サービス製品は、イスラエルCheck Point 社からのパッチ提供サービスとNECのQ&Aサポートサービスを統合した製品です。本サービスを受けるためには以下の製品の購入が必須となります。

本サービス製品はライセンス製品と1対1で対応していますので、ライセンス製品に適合した サービス製品を購入しなければなりません。

★● 購入前には必ず型番等についてお問い合わせください。 ■ ■ ■

- Express5800/FirewallServer(25ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(50ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(100ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(250ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(無制限ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(VPN機能付25ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(VPN機能付50ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(VPN機能付100ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(VPN機能付250ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer (VPN機能付無制限ライセンス1年間) ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(統合管理ツール1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化25ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化50ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化100ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化250ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化無制限ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化VPN機能付25ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化VPN機能付50ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化VPN機能付100ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer (多重化VPN機能付250ライセンス1年間) ソフトウェアサポートサービス
- Express5800/FirewallServer(多重化VPN機能付無制限ライセンス1年間)ソフトウェアサポートサービス

● サービス内容

FirewallSreverのソフトウェアについて、お客様(担当のNEC営業・SEを含む)から電話、E-mailおよびFAXによるNEC窓口への問い合わせを可能にします。

- □ 設定や再インストールに関するQ&Aサービス
- □ 障害解決のための問題切り分け支援(Q&A)サービス
- □ パッチ、サービスパック(ダウンロードを予定)およびバージョンアップ媒体(希望に より送付)のサービス

本サービス内容については、FireWall-1/VPN-1開発元のイスラエルCheck Point社の サービスに準拠する部分があり、将来変更される可能性がありますので予めご了承くだ さい。

上記各サービスには、オンサイトでのサービスは含まれておりません。オンサイトでの 支援をご希望の場合は、別途、有償にて承りますのでNEC営業・SEまでご連絡ください。

サービス受付時間

NEC営業日 AM9:00~AM12:00、PM1:00~PM5:00

問合せ窓口のご案内

お客様の登録が完了され次第、ご案内します。

登録手続き

本サービスを受けるためには、本サービス製品を発注いただくとともにライセンス製品 に同梱されている「FirewallServerライセンス&サポート申請書」(以降、申請書と記す)に 必要事項を記入の上、申請書に記載されている宛先(NS-Sol)にFAXします。

本サービス製品を発注いただき上記申請書を送付いただいた後、登録手続きを行いま す。手続き完了後、NECより登録完了のご案内を送付いたします。本手続きにはイスラ エルCheck Point 社との契約部分があり、その手続きに時間がかかる場合がありますの で予めご了承ください。



本サービス申請時にはライセンス製品をご購入いただき、既に(評価ライセンスではな く)正式なライセンスの申請・取得が済んでいる必要があります。

サービス申請シートのCK(Certificate Key)記入欄には、ライセンスを取得したときのEmail(以下の例)に記述されているCertificate Keyをご記入ください。

CheckPoint2000のパッケージに貼られているCertificate Keyは評価用ライセンス取得に必要なもので、本サービスに必要な情報ではありませんのでご注意ください。

例: ライセンス申請後に送付されるE-mailの内容(一部)

	この文字列を登録シートのCK欄に記入	
	/	
:		
Request Details		
C		
Certificate Key:	XXXX XXXX XXXX	
Product:	ervi vio 20 DEC vii (Encryption Module+ Firewall Module+	
Management Console	for single security enforcement point that protects up to 25 inte	rnal no)
Version:	4.1	
:		

サポートが開始されるまでの流れは以下のようになります。

- 1. FirewallServerライセンス製品、ソフトウェアサポートサービス製品を購入
- 2. ライセンスの申請(FAX)
- 3. (およそ5営業日後)E-mailで(CKを含む)ライセンスキーが送付される
- 4. サポートサービスの申請(FAX)
- 5. サポートサービス登録のご案内を送付

サポートの開始

サービス期間

正式なライセンスを申請し、イスラエルCheck Point社がライセンスを発行した日の翌 月1日から1年間有効になります。例えば、7月18日に正式なライセンスが発行された場 合、8月1日から翌年の7月31日の1年間となります。ただし、8月1日(月はじめの1日) に正式なライセンスが発行された場合は、8月1日から7月31日までの1年間となります。

│ **〒一〇** 本サービス満了日は、(本サービス購入日ではなく)ライセンス発行日が起点になります 「<u>「</u>」のでご注意ください。

例1 7月はじめにライセンス製品および本サービス製品を購入、本サービス申請を8月 1日以前に行った場合。

この場合は、1年間のサポートを受けられます。



例2 7月はじめにライセンス製品を購入・申請、本サービス製品を10月1日に購入・申請した場合。

この場合は、サービスを受けられる期間が短くなります。



[↓]

例2のようにライセンス申請後しばらくしてから本サービスをご購入になりますと、その 間(上記の例2では8/1~9/30まで)の分のサービスが受けられません。

イスラエルCheck Point社の規定としてサポート締結可能期間はライセンスの発行日から1年間ですが、本サービスの購入・申請が遅れますと上記のようにサービスを受けられる期間が短くなる場合があります。



本サービスはライセンス申請のタイミングに合わせて速やかにご購入されることを強く
 お勧めいたします。

- ソフトウェアサポートサービスに関する注意
 - ソフトウェアサポートサービスは以下の条件を満たす場合のみ、ご購入できます。
 (条件を満たさない場合は、別途ご相談ください。)
 - □ はじめて購入される場合は、正式なライセンス発行日から1年以内
 - □ 2回目以降の購入で、前回の契約満了日から1年以内
 - 購入したFirewallServerライセンス製品と適合するサービスしか購入できません。
 - 本サービスにはイスラエルCheck Point社との契約が含まれますので、いかなる理 由でも返品や交換はできません。
 - イスラエルCheck Point社での登録作業で時間がかかる可能性がありますが、本サービス製品を発注・申請書を送付いただいた時点からサポートを開始できます。

注意・制限事項

本製品を正しく運用するために次の注意、および制限事項を守ってください。

- 本製品はファイアウォール専用のマシンとして使用してください。他の業務用アプリケーションなどをインストールしないでください。
- 添付のソフトウェアバージョンにおいて、「SecureID」による認証スキーマは利用できま せん。

添付のディスクについて

本装置にはセットアップや保守・管理の際に使用するCD-ROMやフロッピーディスクが添付 されています。ここでは、これらのディスクに格納されているソフトウェアやディスクの用 途について説明します。



添付のフロッピーディスクやCD-ROMは、システムの設定が完了した後でも、システムの
 再インストールやシステムの保守・管理の際に使用する場合があります。なくさないように
 大切に保存しておいてください。

• OS CD-ROM

Linuxオペレーティングシステムが格納されているCD-ROMです。再インストールの際は、初めにこのCD-ROMを使用します。

• バックアップCD-ROM

システムのバックアップとなるCD-ROMです。

パックアップ CD-ROMには、システムのセットアップに必要なソフトウェアや各種モジュールの他にシステムの管理・監視をするための専用のアプリケーション[ESMPRO] が格納されています。システムに備わったRAS機能を十分発揮させるためにぜひお使いください。

• Check Point 2000(CD-ROM)

ファイアウォールエンジンであるCheck Point Software Technologies社の「FireWall-1」を格納したCD-ROMです。

CheckPoint 日本語ユーザ・ガイド(CD-ROM)

CheckPoint2000パッケージに同梱されているFireWall-1関連の日本語マニュアルが格納されているCD-ROMです。

Check Point製品パッチ(CD-ROM)

Check Point製品用のパッチプログラムを格納したCD-ROMです。Check Point 2000 (CD-ROM)からソフトウェアをインストールした場合は、このCD-ROMを使ってアップ グレードしてください。

● 保守・管理ツールCD-ROM

本体およびシステムの保守・管理の際に使用するCD-ROMです。 このCD-ROMには次のようなソフトウェアが格納されています。

- 保守・管理ツール

再セットアップの際に装置の維持・管理を行うためのユーティリティを格納するためのパーティション(保守パーティション)を作成したり、システム診断やオフライン保守ユーティリティなどの保守ツールを起動したりするときに使用します。詳細は5章を参照してください。

– MWA

システムが立ち上がらないようなときに、リモート(LAN接続またはRS-232Cケー ブルによるダイレクト接続)で管理コンピュータから本装置を管理する時に使用する ソフトウェアです。詳細は5章を参照してください。

再インストール用ディスク(フロッピーディスク)

再インストールの際に使用するキーディスクです。なくさないよう、大切に保管してお いてください。

ESMPRO

「ESMPRO®」は、NECが提供するサーバ管理・監視ソフトウェアです。 システムの稼動状況や障害の監視をリモートで行い、障害を事前に防ぐことや万一の場合に 迅速に対応することができます。



本装置を運用する際は、ESMPROを利用して、万一のトラブルからシステムを守るよう心がけてください。

添付のCD-ROM「バックアップCD-ROM」にはシステムを監視するソフトウェア「ESMPRO/ ServerAgent」とESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムを管理するための ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」が格納されています。

ESMPRO/ServerAgentはあらかじめシステムの一部として装置に組み込まれています。また、再インストールの際にも自動的にインストールされます。

ESMPRO/ServerManagerはネットワーク上のコンピュータにインストールします。

ESMPRO/ServerAgentとESMPRO/ServerManagerの詳細は、6章を参照してください。

ESMPROを使ってさらに高度なクライアントサーバシステムを構築する場合は別売の 「ESMPROシステム構築ガイド Ver.2.0(UL9005-201)」を参照してください。この説明書 はESMPRO製品を活用するためのガイドです。

また、ESMPROには、サーバ管理用ソフトウェアをはじめ、ネットワーク管理や電源管理、 ストレージ管理を行う専用のアプリケーション(ESMPROプロダクト)が用意されています。 ESMPROプロダクトについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合 わせください。

各部の名称と機能

本体の各部の名称を次に示します。ここでは本装置で使用するコネクタやランプのみを説明します。

本体前面

① フロントベゼル

日常の運用時に前面のデバイス類を保護するカバー。添付 のセキュリティキーでロックすることができる(→27ペー ジ)。

- ② キースロット フロントベゼルのロックを解除するセキュリティキーの差し口。
- POWERランプ(緑色)
 電源をONにすると緑色に点灯する(→25ページ)。

④ STATUSランプ(緑色/アンバー色)

本体の状態を表示するランプ。正常に動作している間は緑 色に点灯する。異常が起きると緑色に点滅、またはアン バー色に点灯/点滅する(→25ページ)。

⑤ DISK ACCESSランプ(緑色)

取り付けているディスクが動作しているときに点灯する (→25ページ)。

⑥ UID(ユニットID)ランプ(黄色)

装置を識別するためのランプ(→25ページ)。ランプ点灯中 をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメンテ ナンス中の装置を見分けることができる。

ACT/LINKランプ(緑色)

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスと リンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態に あるときに緑色に点滅する(→26ページ)。丸数字の後の数 字は「1」がLANポート1(標準LAN)用のランプで、「2」が LANポート2(拡張LAN)用のランプを示す。

⑧ 3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチフロッピーディスクを挿入して、データの書き 込み/読み出しを行う装置(→30ページ)。

- ⑧-1 ディスクアクセスランプ
- ⑧-2 ディスク挿入口
- ⑧-3 イジェクトボタン

⑨ CD-ROMドライブ

CD-ROMの読み出しを行う装置(→32ページ)。

- ⑨-1 ディスクアクセスランプ
- ⑨-2 CDトレーイジェクトボタン
- ⑨-3 エマージェンシーホール



(3)

(4)

(5)



8-1 8-2 8-3 9-1 9-2 9-3

POWERスイッチ

電源をON/OFFするスイッチ(→28ページ)。一度押すと POWERランプが点灯し、ONの状態になる。もう一度押す と電源をOFFにする。4秒以上押し続けると強制的に シャットダウンする。

UID(ユニットID)スイッチ

本体前面/背面にあるUIDランプをON/OFFするスイッチ。 スイッチを一度押すと、UIDランプが点灯し、もう一度押 すと消灯する(→29ページ)。

12 シリアルポート2(COM2)コネクタ

管理コンピュータと接続するためのコネクタ。セットアッ ブと保守の際に使用する。

13 DUMPスイッチ

押すとメモリダンプを実行する。通常は使用しない。

知っておきたいこと

(12) (13)

本体背面

① シリアルポート1(COM1)コネクタ

シリアルインタフェースを持つ装置と接続する(→51ペー ジ)。

② LANコネクタ

100BASE-TX/10BASE-Tと接続するコネクタ(→51ページ)。LAN上のネットワークシステムと接続する。丸数字の後の数字は次のとおり。

- 2-1 LANポート1(外部ネットワーク接続用)
- ②-2 LANポート2(内部ネットワーク接続用)
- 2-3 LANポート3(DMZネットワーク接続用)
- ②-4 LANポート4(DMZネットワーク拡張接続用)

③ ACT/LINKランプ(緑色)

ネットワークポートが接続しているハブなどのデバイスと リンクしているときに緑色に点灯し、アクティブな状態に あるときに緑色に点滅する(→26ページ)。

④ 100TXランプ(黄色)

ネットワークポートが100Mbpsで動作しているときに黄色 に点灯する。10Mbpsで動作しているときは消灯する(→26 ページ)



⑤ POWERランプ(緑色)

電源をONにすると緑色に点灯する(→25ページ)。

⑥ UID(ユニットID)ランプ(黄色)

本体を識別するためのランプ(→25ページ)。ランプ点灯 中をメンテナンス中とした場合、本体前面/背面からメン テナンス中の装置を見分けることができる。

⑦ 電源コネクタ

添付の電源コードを接続する(→51ページ)。

装置内部

- ハードディスクベイ(ハードディスクを搭載済み)
- 冷却ファン(丸数字の後の数字はファン番号を示す)
- ③ リチウム電池
- ④ コンフィグレーションジャンパ
- ⑤ ネットワークカード
- ⑥ マザーボード
- ⑦ DIMM(右図の下からDIMM #1→DIMM #2→ DIMM #3, Slot #1に1枚標準装備)
- (8) プロセッサ(CPU)



ランプ

本体前面には8つ、背面には6つのランプがあります。ランプの表示とその意味は次のとおりです。

POWERランプ(①)

本体前面と背面に各1個あります。電源がONの間、ランプが緑色に点灯しています。

STATUSランプ(�)

本体前面にあります。本体が正常に動作している間はSTATUSランプは緑色に点灯します。 STATUSランプが消灯しているときや、緑色に点滅、またはアンバー色に点灯/点滅してい るときは本体になんらかの異常が起きたことを示します。 異常が起きたときは保守サービス会社に連絡してください。



- ESMPROまたはオフライン保守ユーティリティをインストールしておくとエラーログ を参照することで故障の原因を確認することができます。
- いったん電源をOFFにして再起動するときに、OSからシャットダウン処理ができる場合はシャットダウン処理をして再起動してください。シャットダウン処理ができない場合はPOWERスイッチを使った強制電源切断をするか(28ページ参照)、一度電源コードを抜き差しして再起動させてください。

DISK ACCESSランプ(□)

本体前面にあります。DISK ACCESSランプは本体内蔵のハードディスクやCD-ROMドライ ブにアクセスしているときに点灯します。

UID(ユニットID)ランプ

本体前面と背面に各1個あります。本体前面にあるUIDスイッチを押すと点灯しもう一度押 すと消灯します。複数台の装置がラックに搭載された中から特定の装置を識別したいときな どに使用することができます。特にラック背面からのメンテナンスのときは、このランプを 点灯させておくと、対象装置を間違えずに作業することができます。

ACT/LINKランプ(ACT/LNK1、ACT/LNK2)

本体前面と背面(LANコネクタ1/2部分)に各2個あります。本体標準装備のネットワーク ポートの状態を表示します。本体とHUBに電力が供給されていて、かつ正常に接続されてい る場合に点灯します(LINK)。ネットワークポートが送受信を行っているときに点滅します (ACT)。

LINK状態なのにランプが点灯しない場合は、ネットワークケーブルやケーブルの接続状態を 確認してください。それでもランプが点灯しない場合は、ネットワーク(LAN)コントローラ が故障している場合があります。お買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してく ださい。

アクセスランプ

本体前面にあるフロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブのアクセスランプは、それ ぞれにセットされているディスクやCD-ROMにアクセスしているときに点灯します。

100TXランプ

本体背面のLANコネクタ1/2部分に各1個あります。本体標準装備のネットワークポートの 通信モードが100BASE-TXか、10BASE-Tのどちらのネットワークインタフェースで動作 されているかを示します。点灯しているときは、100BASE-TXで動作されていることを示 します。消灯しているときは、10BASE-Tで動作していることを示します。

運用時の操作

電源のON/OFFの方法など日常の運用で知っておいていただきたい操作手順について説明します。

フロントベゼル ~取り付け・取り外し~

ラックに搭載した本体の電源のON/OFFやフロッピーディスクドライブ、CD-ROMドライブ を取り扱うときはフロントベゼルを取り外します(卓上に設置した場合は、フロントベゼル を取り付けることはできません)。



フロントベゼルは、添付のセキュリティキーでロックを解除しないと開けることができません。

 キースロットに添付のセキュリティキーを差し込み、キーをフロントベゼル側に軽く押しながら 回してロックを解除する。

- フロントベゼルの右端を軽く持って手前 に引く。
- フロントベゼルを左に少しスライドさせ てタブをフレームから外して本体から取 り外す。

フロントベゼルを取り付けるときは、フロン トベゼルの左端のタブを本体のフレームに 引っかけるようにしながら取り付けます。取 り付けた後はセキュリティのためにもキーで ロックしてください。



ĉ

解除

ロッイ

Ф

POWERスイッチ ~電源のON/OFF/再起動~

電源は前面にあるPOWERスイッチを押すとONの状態になります。 次の順序で電源をONにします。

- 1. ラックに搭載している場合は、フロントベゼルを取り外す。
- 2. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットしていないことを確認する。
- 3. 本装置に接続している周辺機器の電源をONにする。



無停電電源装置(UPS)などの電源制御装置に電源コードを接続している場合は、電源制御装置の電源がONになっていることを確認してください。

^{4.} 本体前面にあるPOWERスイッチを押す。



電源コードを接続するとハードウェアの初期診断を始めます(約5秒間)。初期診断中はPOWER スイッチは機能しません。電源コードの接続直後は、約5秒ほど時間をおいてからPOWERス イッチを押してください。

電源をONにしてからしばらくの間、自己診断プログラム(POST)を実行して本装置自身の診断しています。POSTを完了するとシステムが起動します(約2分で起動します)。 ポリシーがインストールされていれば、そのままファイアウォールとして機能します。

電源のOFFは、管理用コンピュータ(コンソール)を本体のシリアルポート2(COM2)に接続し、rootでログインしてから、shutdownコマンドを実行します。

shutdown -h now

シャットダウン処理の後、自動的に電源がOFFになります。

再起動をする際もコンソールを本体に接続し、rootでログインしてから、shutdownコマンドを実行します。

shutdown -r now

約3分でシステムが再起動します。 shutdownコマンドで電源をOFFにできないときは、前面のPOWERスイッチを押してくだ さい。それでも電源がOFFにならない場合は、POWERスイッチを4秒以上押し続けてくだ さい。システムが強制的に電源OFFとなります。

UID(ユニットID)スイッチ 〜サーバの確認〜

複数の装置を1つのラックに搭載している場合、保守をしようとしている装置がどれである かを見分けるために本体の前面および背面には「UID(ユニットID)ランプ」がもうけられてい ます。



前面にあるUID(ユニットID)スイッチを押すとUIDランプが点灯します。もう一度押すとラ ンプは消灯します。

ラック背面からの保守は、暗く、狭い中での作業となり、正常に動作している装置の電源や インタフェースケーブルを取り外したりするおそれがあります。UIDスイッチを使って保守 する装置を確認してから作業をすることをお勧めします。

本体背面にもPOWERランプがあります。通電中であるかどうかを確認することができま
 レント

フロッピーディスクドライブ

本体前面にフロッピーディスクを使ったデータの読み出し(リード)・保存(ライト)を行うこ とのできる3.5インチフロッピーディスクドライブが搭載されています。 本装置では3.5インチの2HDフロッピーディスク(1.44Mバイト)を使用することができま す。

フロッピーディスクのセット/取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする前に本体の電源がON (POWERランプ点灯)になっていることを確認してください。

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに完全に押し込むと「カチッ」と音がして、フロッピーディスクドライブのイジェクトボタンが少し飛び出します。

イジェクトボタンを押すとセットしたフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブか ら取り出せます。

- フロッピーディスクをセットした後に本体の電源をONにしたり、再起動するとフロッ ピーディスクから起動します。フロッピーディスク内にシステムがないと起動できません。
 - フロッピーディスクアクセスランプが消灯していることを確認してからフロッピーディ スクを取り出してください。アクセスランプが点灯中に取り出すとデータが破壊される おそれがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクが壊れると保存されているデータが使えなくなります。次の点に注意して取り扱ってください。

- フロッピーディスクドライブにはていねいに奥まで挿入してください。
- ラベルは正しい位置に貼り付けてください。
- 鉛筆やボールペンで直接フロッピーディスクに書き込んだりしないでください。
- シャッタを開けないでください。
- ゴミやほこりの多いところでは使用しないでください。
- フロッピーディスクの上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- たばこの煙に当たるところには置かないでください。
- 水などの液体の近くや薬品の近くには置かないでください。
- 磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。
- クリップなどではさんだり、落としたりしないでください。
- 磁気やほこりから保護できる専用の収納ケースに保管してください。

 フロッピーディスクは、保存している内容を誤って消 すことのないようにライトプロテクト(書き込み禁止) ができるようになっています。ライトプロテクトされ ているフロッピーディスクは、読み出しはできます が、ディスクのフォーマットやデータの書き込みがで きません。重要なデータの入っているフロッピーディ スクは、書き込み時以外はライトプロテクトをしてお くようお勧めします。3.5インチフロッピーディスクの ライトプロテクトは、ディスク裏面のライトプロテク トスイッチで行います。



 フロッピーディスクは、とてもデリケートな記憶媒体です。ほこりや温度変化によって データが失われることがあります。また、オペレータの操作ミスや装置自身の故障など によってもデータを失う場合があります。このような場合を考えて、万一に備えて大切 なデータは定期的にパックアップをとっておくことをお勧めします。(本製品に添付され ているフロッピーディスクは必ずバックアップをとってください。)

CD-ROMドライブ

本体前面にCD-ROMドライブがあります。CD-ROMドライブはCD-ROM(読み出し専用のコンパクトディスク)のデータを読むための装置です。



CD-ROMのセット/取り出し

CD-ROMは次の手順でセットします。

- 1. CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする前に本体の電源がON(POWERランプが緑色に点灯) になっていることを確認する。
- 2. CD-ROMドライブ前面のCDトレーイ ジェクトボタンを押す。

トレーが少し出てきます。

- トレーを軽く持って手前に引き出し、トレーが止まるまで引き出す。
- CD-ROMの文字が印刷されている面を上 にしてトレーの上に静かに、確実に置 く。





 右図のように片方の手でトレーを持ちな がら、もう一方の手でトレーの中心にあ るローター部分にCD-ROMの穴がはまる ように指で押して、トレーにセットす る。





CD-ROMの取り出しは、CD-ROMをセットするときと 同じようにCDトレーイジェクトボタンを押してトレー を引き出します。

アクセスランプが点灯しているときはCDにアクセスし ていることを示します。CDトレーイジェクトボタンを 押す前にアクセスランプが点灯していないことを確認し てください。

右図のように、片方の手でトレーを持ち、もう一方の手 でトレーの中心にあるローター部分を押さえながらCD-ROMの端を軽くつまみ上げるようにしてトレーから取 り出します。

CD-ROMを取り出したらトレーを元に戻してください。

CD-ROMが取り出せない場合

CDトレーイジェクトボタンを押してもCD-ROMが取り出せない場合は、次の手順に従って CD-ROMを取り出します。

- POWERスイッチを押して本体の電源を OFF(POWERランプ消灯)にする。
- 2. 直径約1.2mm、長さ約100mmの金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用できる)をCD-ROM前面右側にあるエマージェンシーホールに差し込んで、トレーが出てくるまでゆっくりと押す。

ਰਾ

- つま楊枝やプラスチックなど折れ やすいものを使用しないでください。
- 上記の手順を行ってもCD-ROMが 取り出せない場合は、保守サービ ス会社に連絡してください。
- 3. トレーを持って引き出す。
- 4. CD-ROMを取り出す。
- 5. トレーを押して元に戻す。



CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMを破損しないように次の点に注意して取り扱ってください。

- CD-ROMを落とさないでください。
- CD-ROMの上にものを置いたり、曲げたりしないでください。
- CD-ROMにラベルなどを貼らないでください。
- 信号面(文字などが印刷されていない面)に手を触れないでください。
- 文字の書かれている面を上にして、トレーにていねいに置いてください。
- キズをつけたり、鉛筆やボールペンで文字などを直接CD-ROMに書き込まないでください。
- たばこの煙の当たるところには置かないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近くなど温度の高くなる場所には置かないでください。
- 指紋やほこりがついたときは、乾いた柔らかい布で、内側から外側に向けてゆっくり、 ていねいにふいてください。
- 清掃の際は、CD専用のクリーナをお使いください。レコード用のスプレー、クリーナ、 ペンジン、シンナーなどは使わないでください。
- 使用後は、専用の収納ケースに保管してください。

ログの管理

FireWall-1のログは毎日午前4時2分にローテーションされ、基本設定ツールで設定された保存期間だけディスク上に残されます。

FireWall-1のログ領域は、約9GB確保していますが、万一、ファイルシステムがいっぱいになった場合は、過去のログファイルを削除するとともに、基本設定ツールで保存時間を短めに設定し直すようにしてください。

過去のログは以下の形式で /etc/fw/log 配下に残っています。

fwlog数字.alog fwlog数字.alogptr fwlog数字.log fwlog数字.logptr

fwlog1.*が前日のログで、数字が大きいほど過去のログになります。 ログの保存期間を短く設定しなおした場合でも、すでに残っているログファイルを削除する ことはありませんので、このような場合は、保存期間以上の数字を持つログファイルを必ず 削除するようにしてください。

なお、FireWall-1の管理モジュールを別のシステムで運用する分散型構成の場合は、ログは すべて管理モジュールが動作しているシステム上に送られ、サーバ上には残りません。分散 型構成の場合は、管理モジュールの動作しているシステムのファイルがいっぱいにならない ように注意してください。

ログ内容の確認は、コンソールからFireWall-1のバンドルユーティリティである「Log Viewer」を使って行います。

氢10).17.122.123 - Che	ck Point Log '	Viewer - I	[fw.log]					
<u>F</u> ile	<u>E</u> dit <u>V</u> iew <u>S</u>	elect <u>W</u> indo	w <u>H</u> elp						
Ľ	2888) / J 🔳	奞 உ	G @	🖛 🎋 👯 📘	g ·	-		
No.	Date	Time	Inter.	Origin	Туре	Action	Service	Source	Destination 🔺
35	26Sep2000	17:53:28	😝 eth0	firevvall	🔁 log	🗥 accept	ftp	host02	FtpWebServer (V
36	26Sep2000	17:53:44	主 eth1	firewall	🔁 log	📇 accept	nbdatagram	192.168.102.128	192.168.102.255
37	26Sep2000	17:54:04	主 eth0	firewall	🔁 log	🟦 accept	ntp-udp	firevvall	host01
38	26Sep2000	17:54:19	主 eth0	firevvall	🛕 alert	🔘 drop	teinet	host02	FtpWebServer (V
39	26Sep2000	17:54:37	主 eth0	firewall	🔁 log	📇 accept	http	host03	FtpWebServer (V
40	26Sep2000	17:54:37	主 eth0	firevvall	🔁 log	🛣 accept	http	host03	FtpWebServer (V
41	26Sep2000	17:54:37	主 eth0	firevvall	😰 log	🛣 accept	http	host03	FtpWebServer (V
42	26Sep2000	17:54:52	主 eth0	firevvall	😰 log	🞢 accept	http	host03	FtpWebServer (V
43	26Sep2000	17:55:08	主 eth0	firewall	🔁 log	🟦 accept	ntp-udp	firewall	host01
44	26Sep2000	17:55:08	主 eth1	firewall	🖸 log	🛣 accept	domain-udp	FtpWebServer	10.17.7.3
45	26Sep2000	17:56:12	主 eth0	firevvall	😰 log	🛣 accept	ntp-udp	firevvall	host01
46	26Sep2000	17:56:12	主 lo	firewall	📉 control	ctl			
47	26Sep2000	17:56:14	主 eth0	firevvall	🔁 log	🛣 accept	FVV1_mgmt	host03	firewall
48	26Sep2000	17:56:19	主 eth0	firevvall	🛃 log	🛣 accept	FVV1_mgmt	host03	firewall
49	26Sep2000	17:56:34	主 eth0	firevvall	🔁 log	🞢 accept	http	host03	FtpWebServer (V
50	26Sep2000	17:56:34	主 eth0	firewall	🔁 log	🟦 accept	http	host03	FtpWebServer (V
L.									-
•									<u> </u>
For H	lelp, press F1						logview.fw	10.17.122.123	NUM ///

Log Viewerは、セットアップの際にインストールすることができます。2章の「セットアップ」を参照してください。Log Viewerの詳細な使用方法については、CheckPoint2000に添付の「CheckPoint 日本語ユーザ・ガイド(CD-ROM)」の「CheckPoint VPN-1/FireWall-1管理ガイド」(SecAdminJ.pdf)をご覧ください。

システムステータスのチェック

システムの状態をチェックするユーティリティ「System Status Viewer」がFireWall-1にパ ンドルされています。



システムの障害を未然に防ぐために、「System Status Viewer」を使ってコンソールからシ ステムの状態を定期的にチェックしてください。

System Status Viewerは、セットアップの際にインストールすることができます。2章の 「セットアップ」を参照してください。System Status Viewerの詳細な使用方法について は、CheckPoint2000に添付の「CheckPoint 日本語ユーザ・ガイド(CD-ROM)」の 「CheckPoint VPN-1/FireWall-1 管理ガイド」(SecAdminJ.pdf)をご覧ください。